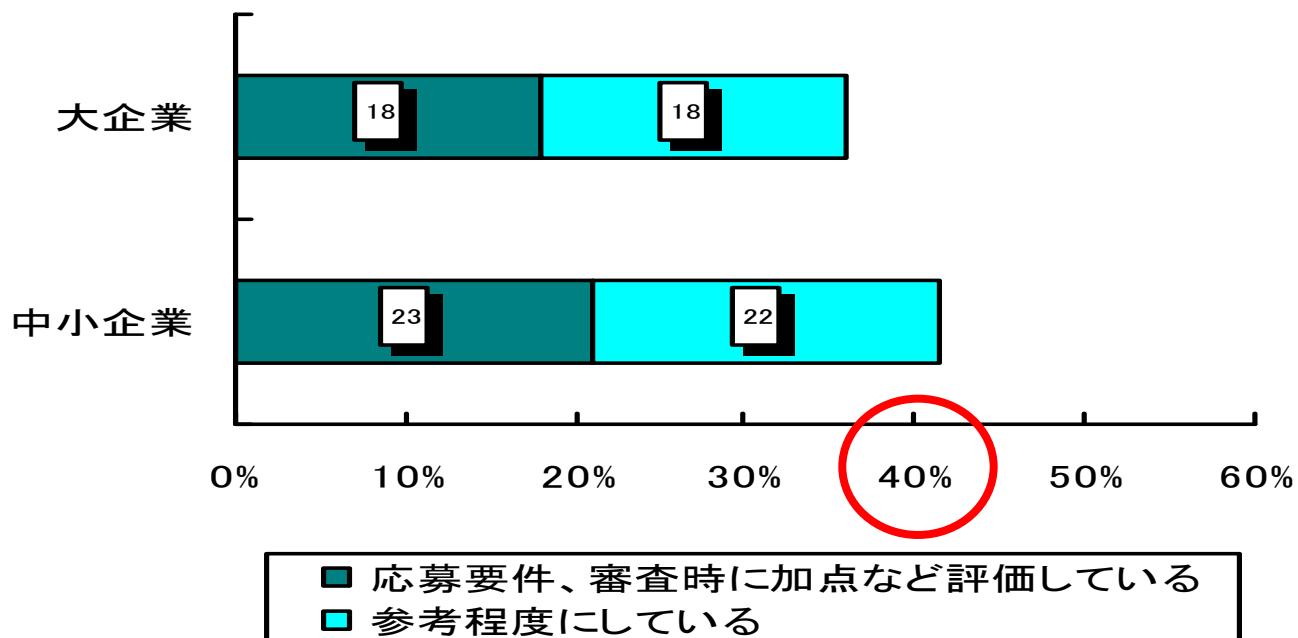


一 検定試験の評価等の制度に関する調査(企業等対象)

職員採用時の検定試験に対する評価

応募要件であることや審査時に加点するなど評価していたり、参考程度にしていると回答した企業は、大企業、中小企業ともに約4割あった。

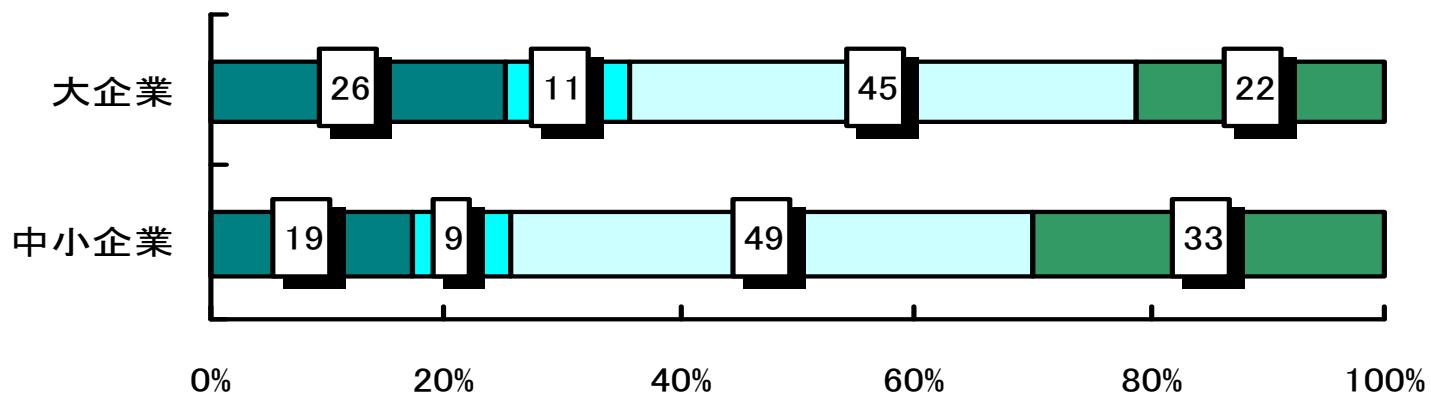


資料:文部科学省委託「検定試験の評価等の制度に関する調査(企業等対象)」(平成19年)
調査対象:民間企業(大手企業100社、中小企業109社)の人事担当部署

検定試験等を評価する判断基準

国が何らかの形で承認・保証している試験であったり、実施団体等が国により認可した法人等で信頼できること(5割弱)や、受験者が多く、広く一般に評価が確立していること(約2割)といった、検定に対する何かしらの評価や保証が基準となっているという意見が大多数を占めていた。

※検定試験等を職員採用時等に「評価している」「参考程度にしている」と回答した企業に対して質問(複数回答)

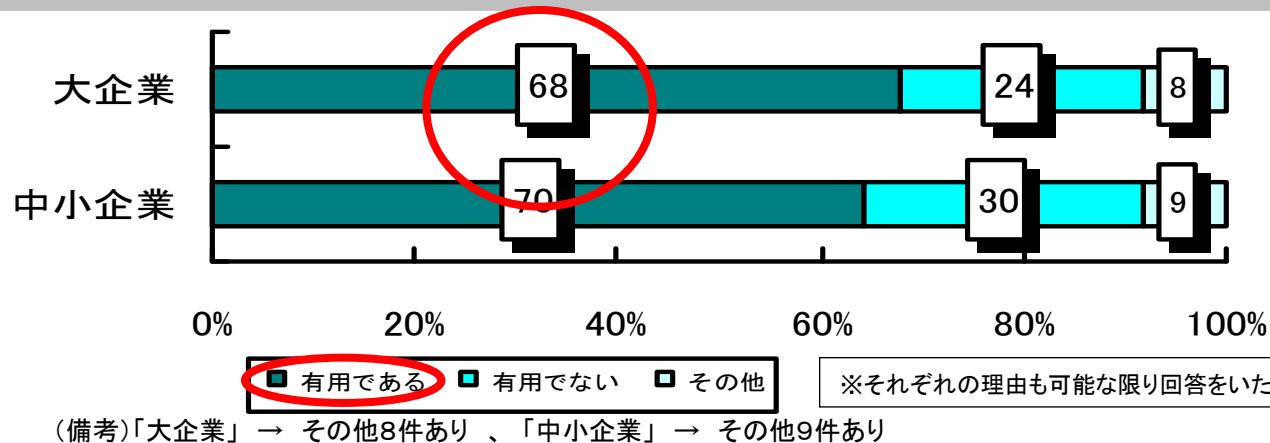


- 受験者が多く、広く一般に評価が確立している
- 国際的に定評のある試験である
- 国が何らかの形で承認・保証している試験であったり、実施団体等が国により認可した法人等で信頼できる
- その他

(備考)「その他」→「社内で技術向上、昇進等していくには必須のものである」等

検定試験等が証明する能力の明確化や 第三者機関の保証についての有用性

有用であるという企業が、大企業、中小企業とも7割弱と多数を占めていた。



○ 「有用である」と回答した主な理由

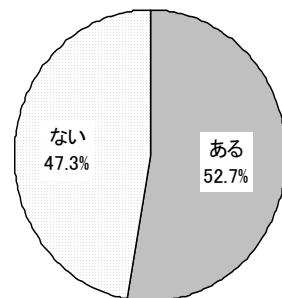
- ・現在ある同種の検定試験や新しい検定試験の内容が明確になれば、採用・人事管理において判断がしやすくなる。
- ・保証された検定試験の級等を有しているということは、ある程度その知識のレベルがあるということになるから。
- ・各種検定試験が信頼できるようになる。
- ・検定試験を取得するための努力の過程、前向きな姿勢をみてとれる。
- ・検定試験の取得は人物の経験を表すものであるから。

二 検定試験の評価等の制度に関する調査(個人対象)

検定の受検経験

受検した経験があるとした回答者は全体で約5割強であったが、年代別に見ると、特に若年層から40代にかけて6～7割前後の人々が受検している傾向が表れていた。

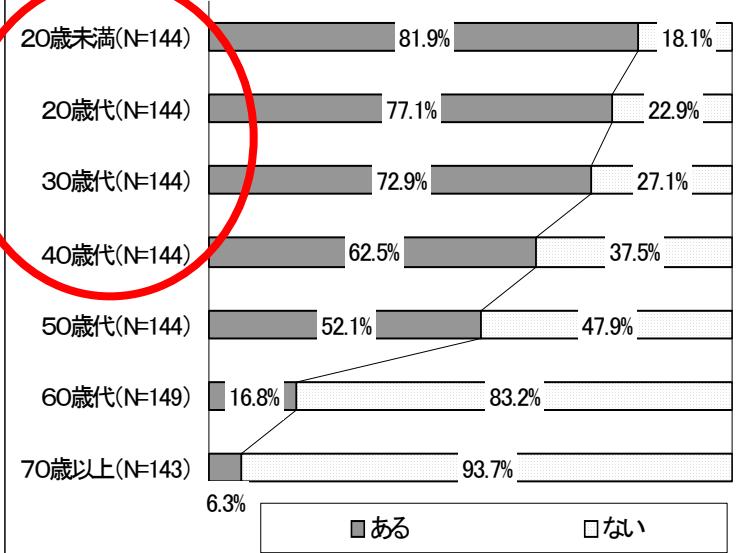
Q1 検定受験経験の有無(N=1012)



年代別内訳



Q1 検定受験経験の有無(年代別クロス)



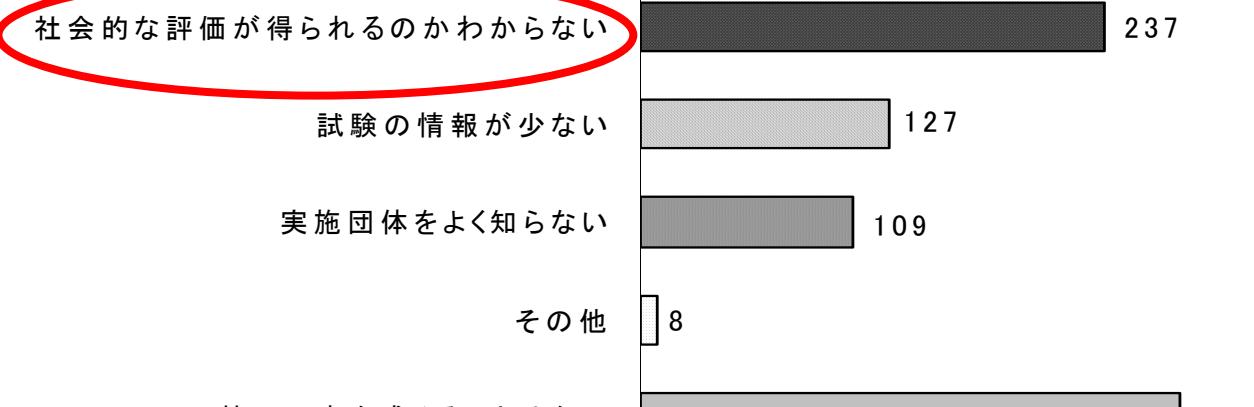
資料:文部科学省委託「検定試験の評価等の制度に関する調査(個人対象)」(平成19年)
調査対象:10～70代以上の男女1012人

検定についての不安事項

不安の内容としては「検定結果に対する社会的評価が得られるかわからない」という回答が237件と最も多く、「試験の情報が少ない」(127件)、「実施団体をよく知らない」(109件)という順になっている。

※検定の受検経験又は今後の受検意向があるとした回答者に質問

Q4 検定受験、結果に対する不安 (MA N=611)

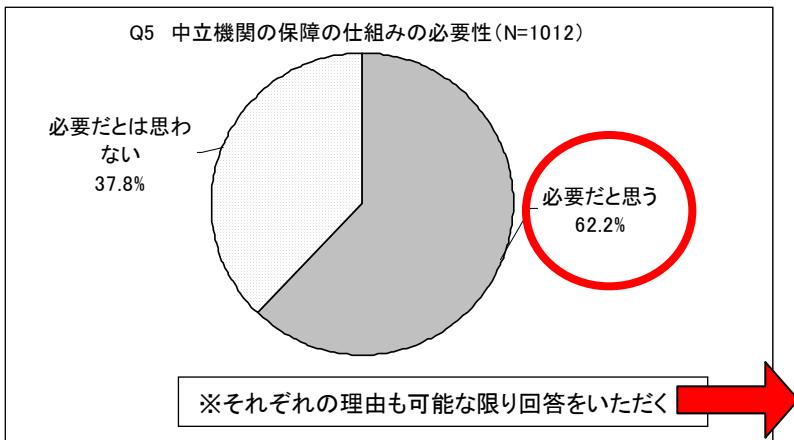


資料:文部科学省委託「検定試験の評価等の制度に関する調査(個人対象)」(平成19年)
調査対象:10~70代以上の男女1012人

検定を保証する機関について

中立公平な機関が保証する仕組みがあつたほうが良いと「思う」とする回答が
約6割を占めていた。

あつたほうが良いと思う理由についても、検定の価値や安心感が高まる、検定
に対する判断材料になる、といった理由が多かった。



「あつたほうがよいと思う」とした回答者の主な理由

(○検定の価値・安心感が高まるという意見)

- ・社会的認知・信用があがる
- ・レベルが保障され、権威や重みが増す
- ・営利目的で簡単に取れる資格と区別できる
- ・悪質業者の排除、詐欺・トラブル・不正の回避ができる

(○検定の判断材料になるという趣旨の意見)

- ・判断基準になる
- ・比較ができる
- ・資格ごとの評価が明確になる
- ・簡単明瞭な評価ができるこことを期待して
- ・しつかりとした評価基準として用いることができる